

音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナーコース
1年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習 I（前期）	34	2	1
実習	分野別実習 I（後期）	34	2	1
講義	業界知識 I	72	2	4
講義	一般教養 I	68	2	4
講義	音楽史 I	68	2	4
講義	舞台知識 I	68	2	4
講義	P C 知識 I	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識 I	68	2	4
実習	サウンドアナライズ I	68	2	2
実習	映像 I	68	2	2
実習	P r o T o o l s 基礎 I	68	2	2
実習	P r o T o o l s 応用 I	68	2	2
演習	レコーディング基礎 I	68	2	4
演習	レコーディング応用 I	68	2	4
合計		888	26	42

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
①企業に就職するために必要な知識とスキルを身に付けるための授業を行う。 ②人として信頼されるための第一印象の重要性、ビジネスマナー(マナーの5原則・敬語・電話対応など)、履歴書の作成方法、面接対策。 ③卒業後の自分を見据えるためのキャリアビジョンを設定し、実現に向けて何が必要かを考えていく。					
到達目標					
・社会人になるための心構え、教養、作法を身に付け、自身の目標を明確にし、その目標に向かってのプランニングができるようになる。 ・身だしなみや挨拶の仕方、正しい敬語の使い方など社会人として必要な一般常識、並びに名刺交換の作法、電話対応、ビジネスメールの書き方など、ビジネスマナーの知識を身に着ける。 ・就職活動の際に必要な履歴書及びエントリーシートの作成ができるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・自分の第一印象は？、信頼印象力 ・キャリアビジョン(目標設定)
【前期】 4～7回目	・マナーとは？、マナーの5原則 ・就活の身だしなみ ・敬語とは？(尊敬語、丁寧語、謙譲語、クッション言葉、間違いやすい敬語、自己紹介文作成)
【前期】 8～10回目	・コミュニケーション(グループコンサルティング) ・電話応対(かけ方、受け方、取り次ぎ方)
【前期】 11～13回目	・ビジネスメール ・就活についての基本事項、企業研究
【前期】 14～17回目	■前期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自分の第一印象・キャリアビジョンについての自分の考えをまとめたものを記述する。
【後期】 18～20回目	・キャリアビジョン(自己分析) ・企業研究、自己PR、志望動機作成 ・感情のコントロール
【後期】 21～24回目	・履歴書作成 ・エントリーシート作成 ・面接練習(個人、グループディスカッション)
【後期】 25～27回目	・一般常識、SPI対策 ・名刺交換 ・冠婚葬祭マナー
【後期】 28～30回目	・面接対策 ・履歴書写真撮影、メイク ・食事のマナー
【後期】 31～34回目	■後期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自己PRをまとめたものを記述する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の第一印象について知ること、自分の長所をどのように活かし、短所をどのように変えていけばよいのかについて考え、自己成長につなげて行きましょう。 また、社会人として必要なビジネスマナーや一般常識も学んでいきます。自分のキャリアを考える一年にしましょう。
備考	授業ごとに講師が準備した教材を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音楽史Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	必修	
	学則別表上表記	音楽史Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かしポピュラーミュージックの歴史についての講義を行う。					
授業概要						
①ジャズやブルースの時代まで遡り、1950年代のエルヴィス・プレスリーや1960年代のビートルズなど、その時代を象徴するアーティストを時代背景と並行して学ぶ。 ②現代のポピュラーミュージックに至るまでの流行や低迷の歴史、並びに変遷を学び一つの事柄(ジャンルや、アーティスト、楽曲等)に対して深く掘り下げ、他との関連性を調べる習慣を身に付け、「知る」という行為、「探究心」を育てる。						
到達目標						
・数々のジャンルや時代背景についての理解を深め、実際に現場で演者が目指すであろう音楽像を様々な音楽ジャンルの中より察知し、具体的な提案や技術提供ができる人物になる。 そして音作りや演出等に活かせるよう感性を磨き、担当するアーティストの活動がより良いものとなるよう常に研究・模索する人物であること。						
・音楽業界人の一般教養として、あるいは、音楽についての会話を通じて、円滑なコミュニケーションを図る一つのツールとなる様、その知識を活用できる人物になること。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ジャズ、ブルースの誕生と時代背景の講義。
【前期】 4～7回目	1950年代のロックンロールの誕生などアメリカにおける流行音楽の講義。
【前期】 8～10回目	1960年代のビートルズの登場などイギリスにおける流行音楽の講義。
【前期】 11～13回目	1970年代以降、多様化するロックのジャンルの概要についての講義。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	ハードロックの流行や多数の派生ジャンルの登場などの講義。
【後期】 21～24回目	1980年代のメタルやポップスの流行、MTVの登場などの講義。
【後期】 25～27回目	1990年代の様々な流行音楽の講義。
【後期】 28～30回目	その他、様々なジャンルについての講義。
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、音楽の歴史を知ることとはとても重要なことのひとつです。 授業を通して学んだことは、音作りや演出などに直接反映され、将来の仕事に繋げることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料データを共有

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	楽器知識Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	必修	
	学則別表上表記	舞台知識Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	音楽専門学校にてレコーディングを専攻。卒業後は音響関連会社に就職。 音響関連会社を退社後、フリーのエンジニアとして様々なアーティストや声優のレコーディング、映像作品やボイスドラマのMA作業に携わる。					
授業概要						
レコーディングに使用される様々な楽器の役割から構造、音響知識などレコーディングに必要な幅広い知識全般を学ぶ。						
到達目標						
・様々なレコーディングに適した音響知識を獲得する。 ・ポピュラー音楽で使用される楽器を中心に、様々な楽器についてその仕組みを学び、幅広い知識を身につける。 ・楽器の分類／楽器の各部名称と様々なマイクセッティングができるようになる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～3回目	レコーディングスタジオの構造、仕組みについて。					
【前期】 4～7回目	マイクの仕組みについて、ダイナミックマイクについて。					
【前期】 8～10回目	コンデンサーマイクについて、ミキシングコンソールについて。 ヴォーカル収録のセッティング方法。					
【前期】 11～13回目	モニタースピーカーについて。リバーブ、ディレイなど各種エフェクトについて。 ナレーション収録のセッティング方法。映像を用いた場合と歌唱の違いについて。					
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して試験を行う。					
【後期】 18～20回目	ドラムの各部の名称。それぞれに適した機材の選定とマイキングについて。					
【後期】 21～24回目	弾き語りのマイキング方法。 アコースティックギターのレコーディング手法について。					
【後期】 25～27回目	エレキギター、エレキベース、キーボードなど電子楽器のレコーディング手法について①					
【後期】 28～30回目	エレキギター、エレキベース、キーボードなど電子楽器のレコーディング手法について②					
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して試験を行う。					
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。					
学生へのメッセージ	様々な形態のレコーディング方法を学んでいきます。 実際の機材やレコーディングされた音源等を使用して説明します。					
備考	この授業はサウンドアナライズⅠの授業と連動して開講する。					

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ☐	非該当 ☒	
担当講師 実務経歴					
授業概要					
情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラル、個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律の意義や目的などの情報リテラシーからWord/Excel/PowerPointなどの基礎的なオフィスソフトの使い方を理解して就職後に必要な最低限の技術を身に付ける。					
到達目標					
・情報や情報メディアの特性をふまえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任および情報モラルについて理解する。 ・情報技術が人や社会にはたす役割と及ぼす影響について理解する。 ・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	著作権、肖像権等について/スピード検定を使ってキー入力を習得・Wordで案内状の作成
【前期】 4～7回目	知的財産権について/Excelの基本を学ぶ
【前期】 8～10回目	デジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【前期】 11～13回目	音のデジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【前期】 14～17回目	画像のデジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【後期】 18～20回目	動画のデジタル化について/情報処理検定試験を使ってExcelの知識を深める
【後期】 21～24回目	ネットワークについて/情報処理検定試験を使ってExcelの知識を深める
【後期】 25～27回目	TCP/IPについて/HTMLを使ってホームページを作成
【後期】 28～30回目	データの圧縮について/PowerPointを実習する
【後期】 31～34回目	データの暗号化について/PowerPointを実習する
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、ビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェア群です。これを使いこなすことは、仕事をする上で欠かせない技能になります。さらに、シンギュラリティを迎える20年後において、コンピュータの基礎基本を学ぶことは、それに順応できる力となります。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。				
授業概要					
ポストプロダクション、レコーディングに使用される様々な機器の役割から構造、音響知識、電気知識など基礎から応用まで幅広い知識全般を学ぶ。					
到達目標					
・音響、映像に関する基本用語をはじめ、機器の構造、音の性質や特性などの知識を習得する。 ・スピーカー、マイクやミキシングコンソールなどの各機器の役割や正しい取り扱い方法を身につけ、実際の現場の状況に適した対応ができる知識を身につける。					
授業計画・内容					
【前期】 1～3回目	音響の基礎/音響物理の基礎				
【前期】 4～7回目	電気音響の基礎/音響機器①				
【前期】 8～10回目	音響機器②/録音技術				
【前期】 11～13回目	次世代音響技術/音楽理論と楽器について				
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。				
【後期】 18～20回目	映像・音声の基礎とポストプロダクション/映像の基礎				
【後期】 21～24回目	放送/映像信号の成り立ち/映像の記録システム				
【後期】 25～27回目	デジタル映像の応用/映像の編集/音声編集の基礎				
【後期】 28～30回目	MAシステム/デジタルオーディオとネットワークシステム/サラウンドシステム				
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。				
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。				
学生へのメッセージ	音響、映像機材全般に関して、専門的知識を習得します。機材の特徴を知ることによって、様々なシチュエーションに適した機材のセッティング、対応ができるようになります。				
備考	サウンドレコーディング技術概論・ポストプロダクション技術マニュアルを使用します。				

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	音楽専門学校にてレコーディングを専攻。卒業後は音響関連会社に就職。 音響関連会社を退社後、フリーのエンジニアとして様々なアーティストや声優のレコーディング、映像作品やボイスドラマのMA作業に携わる。					
授業概要						
①レコーディング/ミキシングの実習を通して作品に使用されている音の仕組みの基本的な部分を理解する。 ②録音作業を通じてレコーディングの全体像を理解し、作品を俯瞰で見る能力を身に着ける。						
到達目標						
・作品に使用される音の役割について正しく理解する。 ・録音物から作品に使用される音の構成を読み取れるようになる。 ・レコーディング及びミキシングの作業に際し、事前に完成品のイメージをつくることができるようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	スタジオ機材、及び各部の名称や役割について紹介。 機材の扱い方の基本及びマイキングの手法を学ぶ。
【前期】 4～7回目	講師によるレコーディングオペレートを見て、実際のレコーディングの流れを確認する。 すでに完成されているプロジェクトを用い、楽曲への理解を深め、どのようなアプローチで楽曲を構成し制作がされているかを学ぶ。
【前期】 8～10回目	サンプルアーティスト【ヴォーカル】のレコーディングを行い、実際に録音された音の特性・特徴を理解していく。 フィードバックをしながら、理解ができていないところを重点的に繰り返す。
【前期】 11～13回目	サンプルアーティスト【ナレーション】のレコーディングを行い、実際に録音された音の特性・特徴を理解していく。 フィードバックをしながら、理解ができていないところを重点的に繰り返す。
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	サンプルアーティスト【ドラム】のレコーディングを行い、実際に録音された音の特性・特徴を理解していく。 フィードバックをしながら、理解ができていないところを重点的に繰り返す。
【後期】 21～24回目	サンプルアーティスト【弾き語り】のレコーディングを行い、実際に録音された音の特性・特徴を理解していく。 フィードバックをしながら、理解ができていないところを重点的に繰り返す。
【後期】 25～27回目	サンプルアーティストレコーディング【バンド】 自身で完成形をイメージし、それに沿った収録環境を整える。
【後期】 28～30回目	ミキシング。 制作物の発表及び講評。
【後期】 31～34回目	■後期試験：実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自身が扱う作品の実態を紐解いて理解することはプロになるために必須の能力です。 楽曲理解のための知識・技能の習得と並行して、独自の感性を育んでいきましょう。
備考	上記収録のサンプル順は授業の進度を鑑みながら変更する可能性あり。 この授業は楽器知識Ⅰの授業と連動して開講する。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW & Theory I (前期)		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	映像 I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☒ 非該当 ☐
担当講師 実務経歴	音楽学校卒業後、2015年よりフリーで作詞作曲をすると同時に、DAW講師として活動。 アイドルグループへの楽曲提供及び編曲を多数行うとともに、レコーディングディレクターとしても活躍。現在に至る。 上記の経験を活かし楽曲制作並びに音楽理論の実技指導を行う。					
授業概要						
①映像編集や音楽・SE制作に使用されるアプリケーションの基礎知識を学ぶ。 ②上記アプリケーションの実習を通してサウンドデザインのセンスを磨く。						
到達目標						
・DAWソフト(Logic)を使用し、楽曲制作並びに編集作業の基礎技術を身に着ける。 ・動画編集ソフト(Adobe premiere Pro)を使用し、動画制作並びに編集作業の基礎技術を身に着ける。 ・特定のシーンやプロダクトに合わせたサウンドデザインができるようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	DAWソフト(Logic)の操作方法について。
【前期】 4～7回目	ダイアトニックコード・スケール(メジャー・マイナー)について。 サンプル映像に合わせた簡単なサウンドメイク。
【前期】 8～10回目	既存楽曲のアナライズ・解説。
【前期】 11～13回目	loop等を使用して簡単な楽曲制作。
【前期】 14～17回目	■前期試験：講師が用意したサンプル楽曲のコピー。DAW操作技術の定着度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Mac PC及びDAWソフトを使用し、楽曲制作がどのようにされているのか学びます。 オーディオインターフェイスやその他周辺機器の知識やDAWオペレート技術を習得し、DAWソフトを自在に操作できるようになりましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	映像制作実習Ⅰ(後期)		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	映像Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☒ 非該当 ☐
担当講師 実務経歴	3DCG映像制作会社勤務を経て、現在イラストレーター。公営競技のCMや地方戦隊ヒーローの映像制作に携わる。建設会社や介護施設サイトにイラスト起用。大手宿泊施設の冊子挿絵や温泉施設のポスター、様々なパンフレットデザインまで幅広く活動。					
授業概要						
①映像編集や音楽・SE制作に使用されるアプリケーションの基礎知識を学ぶ。 ②上記アプリケーションの実習を通してサウンドデザインのセンスを磨く。						
到達目標						
・DAWソフト(Logic)を使用し、楽曲制作並びに編集作業の基礎技術を身に着ける。 ・動画編集ソフト(Adobe premiere Pro)を使用し、動画制作並びに編集作業の基礎技術を身に着ける。 ・特定のシーンやプロダクトに合わせたサウンドデザインができるようになる。						

授業計画・内容	
【後期】 18～20回目	Premiere Pro 基本操作 シーケンスの設定・カット・不透明度・エフェクトの種類 等。
【後期】 21～24回目	課題制作 簡単な映像作品の制作①
【後期】 25～27回目	課題制作 簡単な映像作品の制作②
【後期】 28～30回目	課題制作 プロダクトに合わせた音楽・効果音の選定～編集
【後期】 31～34回目	■前期試験:前期学んだ内容の実技試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	MA作業の際に必要なとなる映像編集の基礎知識を学習します。 2年次ではコーディングなど、より高度な技術を習得してもらいますので、しっかりと基礎を身に付けておきましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ProTools基礎 I		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	ProTools基礎 I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー/PA音響 PA&レコーディング専攻					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。					
授業概要						
①Macの基礎知識および、多くのレコーディングスタジオで導入されているPro Toolsについて学ぶ。 ②Pro Toolsとミキシングコンソールの関係性にふれ、実用性について学ぶ。						
到達目標						
・Macへの知識、Pro Toolsの操作技術及び理解力を高め、基礎知識を身につける。 ・Pro Toolsの操作に関する基礎知識を身につける事によって、Pro Toolsの操作速度の向上及び正確性を目指す。 ・Pro Toolsの応用技術を学ぶ事で、現場に出た後も技術を磨いていける自己研鑽力を身につける。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Macの基礎知識、操作方法について。Pro Toolsの概要説明。 Pro Tools新規セッションの作成方法。
【前期】 4～7回目	トラックタイプの説明・ツールの機能について。
【前期】 8～10回目	編集ウィンドウおよびミックスウィンドウでの基本操作。Pro Tools録音における基本操作。 カウンター、メモリーロケートについて。
【前期】 11～13回目	テンポ検出・Pro Toolsでの編集操作について。ショートカットキーの基本操作。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して筆記・実技試験を行い、前期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
【後期】 18～20回目	レコーディングにおけるPro Tools内のセッティング・内部Busの活用方法について。 Pro ToolsのI/O設定、ルーティングについて。
【後期】 21～24回目	ショートカットキーを活用した操作。テイク選択や、ノイズ除去等の編集について。
【後期】 25～27回目	ミキシング実習①【映像作品】
【後期】 28～30回目	ミキシング実習②【バンド】
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して筆記・実技試験を行い、後期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場での空気感を学び、就職した後活かせる知識及び技術を身につけます。 また、今後も変化していくであろうレコーディングシーンにも対応出来る柔軟性も育てていきましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ProTools応用 I		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	ProTools応用 I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー/PA音響 PA&レコーディング専攻					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。					
授業概要						
Pro Toolsを使った録音(楽器・声)を行い、実践的な技術及び、応用技術を習得する。 また、ミックスダウンの方法を学び、作品の収録・納品までできる知識を身に着ける。						
到達目標						
・実践を通してPro Toolsの操作技術及び理解力をさらに高める。 ・作品の収録・納品までを自身でできるようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Mac及びPro Toolsの基礎知識について振り返り。
【前期】 4～7回目	ミックスダウンの作業について理解を深める。バウンスについて学ぶ。 オーディオデータやビデオデータ等のインポート、エクスポートについて学ぶ。
【前期】 8～10回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習【課題曲①】
【前期】 11～13回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習【課題曲②】
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験を行い、前期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
【後期】 18～20回目	納品形態に合わせたデータ作成について学ぶ。
【後期】 21～24回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習【映像作品】
【後期】 25～27回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習【バンド】 サンプル素材によるコンペティションの実施。
【後期】 28～30回目	マスタリング～納品までの流れを学習し、実際に作品を完成させる。
【後期】 31～34回目	■後期試験：実技試験を行い、後期授業で学んだ知識及び技術の習得、習熟具合を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ProTools基礎 I で学んだ内容を基に、実践形式で理解を深めていきます。 現場で即戦力になれる力をつけましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習基礎Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	レコーディング基礎Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー/PA音響 PA&レコーディング専攻						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動が続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かし仕込みからバラシ、スタジオ実習に関する実習を行う。						
授業概要							
①レコーディングスタジオ内の全ての機材や備品の名称、役割を理解し適切に使用できるように学習を進める。 ②実務に近い形で授業を行い、録音作業を通じてレコーディングの全体像を理解し、作品を完成させる技術を習得する。							
到達目標							
・レコーディングスタジオ内にある機材や備品の名称、役割を理解し適切に使用出来る。 ・同じ役割であれば初見の機材でも使用出来る応用力を身に付ける。 ・レコーディングからミックスまでの流れを学び、完成品のイメージを持った計画性のあるレコーディングを進められるようになる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	スタジオの電源の入れ方から、ケーブルの正しい巻き方(8の字巻き)など基本的な作業を理解する。 レコーディングスタジオ内の主要な機材の役割とレコーディング作業全体の流れを理解する。
【前期】 4～7回目	マイクやコンソール、スピーカーなどスタジオに常設されている機器の役割を理解する。 マイクのマイクスタンドへの取り付け方やケーブルの接続方法、CueBoxなど録音前の準備について理解する。
【前期】 8～10回目	機器間接続の中心となるパッチベイを理解し信号の流れ(ルーティング)を理解する。 レコーディングの内容に合わせた準備から回線チェック、片付けまで一連の作業の流れを理解する。
【前期】 11～13回目	マイク、ラインレベルの信号の取り扱いや、Pro Toolsへの録音時の注意点など。 録音のセッティングにおいて、必要な機材と設置方法を理解する。
【前期】 14～17回目	■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	外部エフェクトやProToolsの内部エフェクトなど使用・接続方法を理解する。
【後期】 21～24回目	機器や流れの理解度を再確認する。 直接聴く音と機材によって録音された音の違いを知る。
【後期】 25～27回目	楽器やアーティストの構成などにより変わってくる事前準備や楽器に対する接続方法の違いを理解する。 様々な楽器についての理解を深める。
【後期】 28～30回目	アーティストを交えたレコーディング実習。 実習での反省点や改善点を確認する。
【後期】 31～34回目	■後期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	プロのエンジニアとして活動するために必要な知識の内、基礎的な部分を実際のスタジオワークを通して学んでいきます。高度なレコーディング技術獲得の根幹となる授業ですので、不明点はわかるまでしっかり説明します。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習応用Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	レコーディング応用Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー/PA音響 PA&レコーディング専攻					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐					
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動が続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かし仕込みからバラシ、スタジオ実習に関する実習を行う。					
授業概要						
①スタジオ実習基礎Ⅰでの学習と並行し、より実践的な作業を通して応用力を身に着ける。 ②実務に近い形で授業を行い、録音作業を通じてレコーディングの全体像を理解し、作品を完成させる技術を習得する。						
到達目標						
・実践的な練習をすることで、時間のロスのない円滑なレコーディング作業を進められるようになる。 ・機材トラブルの対処や、行き詰った際の解決策を考えられる思考力を身に着ける。 ・レコーディングからミックスまでの流れを学び、完成品のイメージを持った計画性のあるレコーディングを進められる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	イントロダクション
【前期】 4～7回目	実践的なレコーディング実習【バンドセッティング、ヴォーカルセッティング】
【前期】 8～10回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。 よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【前期】 11～13回目	実践的なレコーディング実習【アフレコ・ナレーション】
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	実践的なレコーディング実習【管楽器・弦楽器アンサンブル】
【後期】 21～24回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。 よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【後期】 25～27回目	実践的なレコーディング実習【ライブレコーディング】
【後期】 28～30回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。 よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	プロのエンジニアとして活動するために必要な知識を基に、ケーススタディを通して応用力を身に着けます。 高度なレコーディング技術獲得の根幹となる授業ですので、不明点はわかるまでしっかり説明します。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。							
到達目標							
前期:音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界の仕事内容を理解する。 後期:音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組みの知識を習得する。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～18回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 19～21回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 22～25回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作権者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 26～28回目	著作権者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作権者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作権隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 29～31回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 32～36回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。